

山 行 報 告

飯 豊 連 峰 縦 走

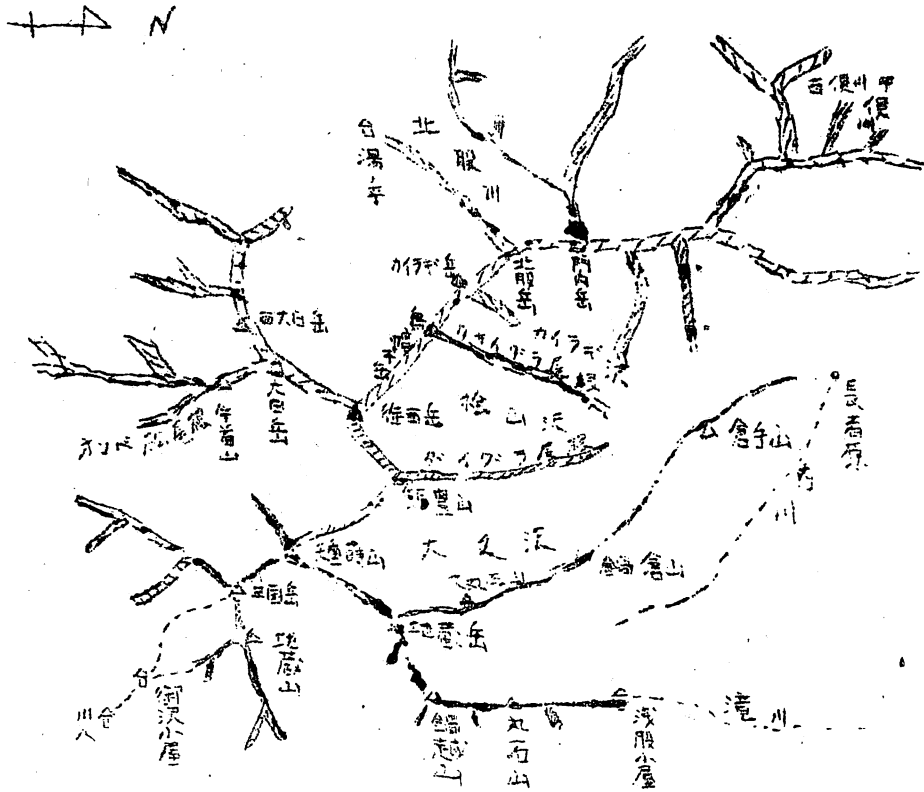
1972.3.7. ~ 3.19

信州大学 伊那 松本山岳部

member

リーダー	白井武
サブリーダー	中田茂
エッセン	棚橋秀 巖
ノウハウ顧問	藤原孝三 巖

概念図



中田 芳

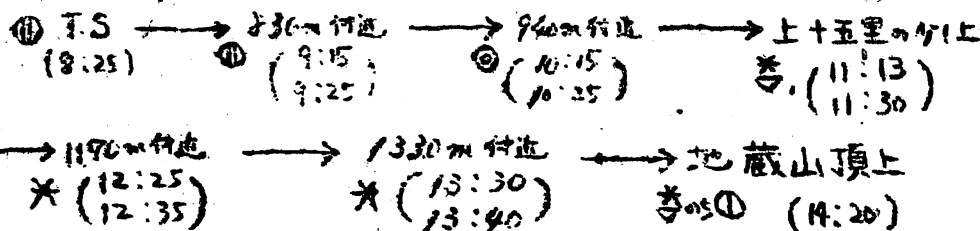
てゆ、長、心、手、遠、は、親、之、し、と、色、し、と、眞、が、を、歩、心、に、し、車、も、と、俺、で、し、ま、う、

白井 武

と、も、か、く、終、っ、た、。、ハ、ア、ニ、ン、グ、が、多、く、た、山、行、を、家、徹、す、る、飲、心、た、り、が、る、。、

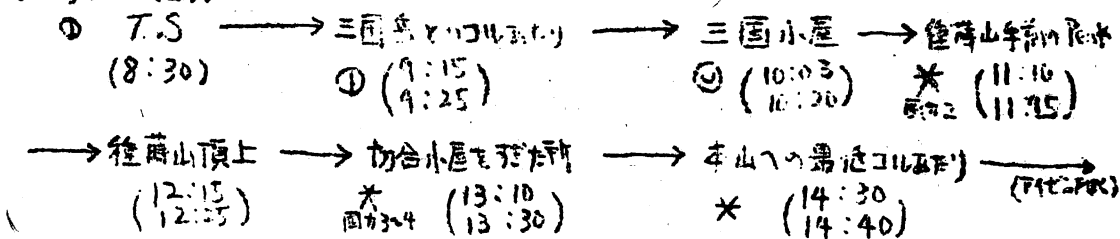
ていふ山にたつて
折、登る始末、
ど、寄らざる、
な、川が、
移る、
く、見えた、
そ、かん、
さ、さん、
た、寺も、
た、た、
新、た、
あ、今、
あ、踏、
の、火、
た、た、
い、た、

【3月9日(火)】



標高差がかなりある長坂といわれる尾根に取り付いて登り出す。
初め、うららかな日差しが、たが2時、
目、あたりから、ヒササキで、雪、湿、た雪とかわっていった。
この登りでは、だいたい寺、沢、さん、ら、セルを、
け、あ、にく、と、ど、人、より、し、た、日、で、登、ご、う、が、ら、は、雪、が、降、り、出、す。
途中、カイドブツに、地蔵小屋、横峰小屋、なん、て、う、も、う、は、影、
さ、え、見、え、た、が、った。地蔵山の頂上、直下、に、雪、洞、を、探、る。こ、れ、に、は、約、
二、時、間、30、分、ぐ、ら、い、を、か、て、や、の、こ、と、で、仕、上、げ、る。や、し、て、
の、晩、は、快、通、な、雪、洞、の、中、で、ス、ヤ、ス、ヤ、初、め、て、に、し、て、ほ、ろ、ほ、ろ、
の、寝、こ、ち、だ、った。

【3月10日(金)】



[3月11日(土)]

* 神社 → ビバーク地 → 神社
(6:30) * (6:55) * (11:25)
回4 (10:35) 回4

昨日は、朝早く起きて、お茶を淹れ、お風呂を浴び、朝食を食べて、お出かけの準備をしました。お天気が悪く、雪が降る予報だったので、防寒対策を万全にしました。お山に行くので、お登山用の服装に着替え、お登山杖も持参しました。お出発は、お朝6時に、お登山口までお出かけしました。お山は、お雪が積もっていて、お景色が綺麗です。お登山は、お大変な作業ですが、お楽しみのため、お頑張ります。お山頂までお登りし、お景色を堪能しました。お下山は、お大変な作業ですが、お楽しみのため、お頑張ります。お山頂までお登りし、お景色を堪能しました。お下山は、お大変な作業ですが、お楽しみのため、お頑張ります。

[3月12日(日)]

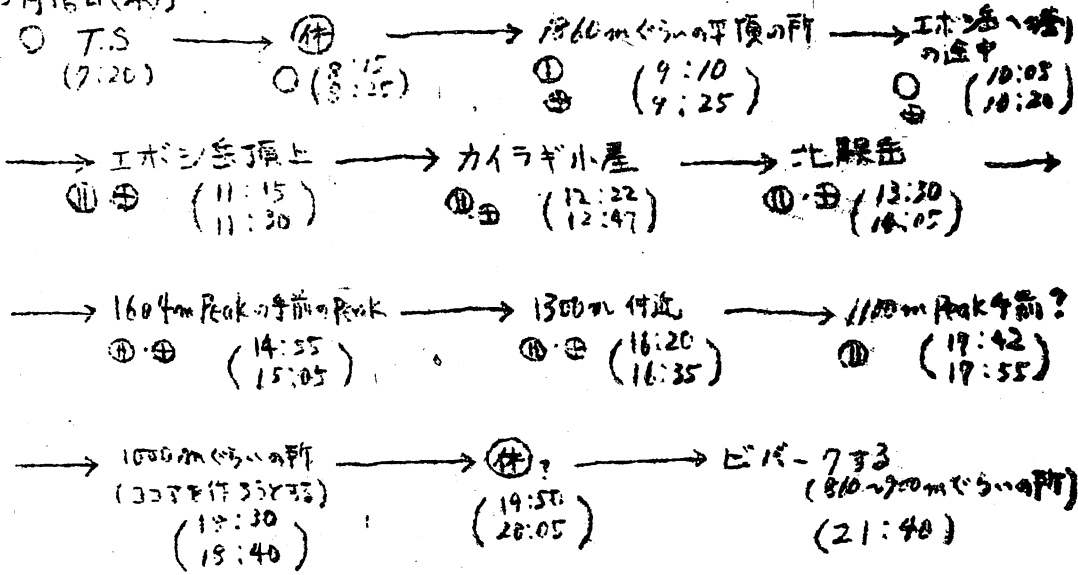
① 神社 → 飯豊本山 → 御西岳頂上 → 御西小屋がし
(7:45) ○ (8:05) ○ (9:45) (9:10)
Sc → G4 (9:00) (9:50)
→ 御西小屋 (9:55) (休) → 大日岳頂上 → 御西小屋
≡ (10:30) (11:20) ≡ (11:40) ≡ (13:02)
① (11:30)

今日は、お天気が悪く、雪が降る予報だったので、防寒対策を万全にしました。お山に行くので、お登山用の服装に着替え、お登山杖も持参しました。お出発は、お朝7時に、お登山口までお出かけしました。お山は、お雪が積もっていて、お景色が綺麗です。お登山は、お大変な作業ですが、お楽しみのため、お頑張ります。お山頂までお登りし、お景色を堪能しました。お下山は、お大変な作業ですが、お楽しみのため、お頑張ります。お山頂までお登りし、お景色を堪能しました。お下山は、お大変な作業ですが、お楽しみのため、お頑張ります。

[3月15日(水)]

以前として吹雪のため沈殿。視界も10~20mほどで全く先が見えない。しかしこの日の沈殿は苦しいものにはな、た。まず朝起きると出口が全く雪に埋まり、序人のわすかにツェルトの間から針がみえる程度。まさか一晩を暴か2.5m高さ2mほどの通路が埋まってしまおうとは思っても見方が、た。おまげに雲洞内の天井が10mほどともさがり、エッジに所々だけ水が凍り付いて落ちてくる始末。そこで思いきって中にツェルトとしき、雪を消りあとする。この日は一日中序人方調子で昼と寝る前。さらに夜キにもう一度通路をラックセルに、全身雪まみれに、た。二人存ことに、たのも入口をまろがえたためだろうが。天気図を見れば明日こそは晴れだろうので夕いに期待をもちてお下りにつく。

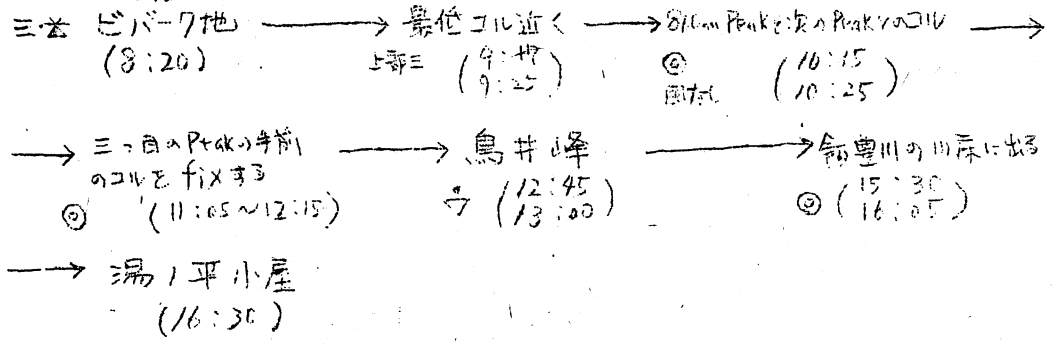
[3月16日(木)]



今日もあまり期待をかけたばかり、た。天気が、ホントウに心ま
 ちにまった甲斐が、快晴となる。それから一秒でも早く、ひ
 出登しよと取手も取りあえず、全員が外に出てしま、ひ
 さしぶりの太陽の光の下に四肢を力い、ぼのぼす。この時だれか
 さすがにあまり興奮しすぎたのだらうが、パイプをホヤリとやる、
 この快晴に北嶽の方でバツリ見え、二日前あんなに苦勞した
 ことウリのほう。ヒヤ下のラックセルもヤ人なに苦に、た。どん
 ど人と進んでいった。昼ごろにはさらには天候もよくなり、東に朝
 日連峰が、飯堂本山の左には蔵王の山脈が、さらに大目岳の右に
 は急沼三山、妙高山群が望ま、た。そして前方には、
 純白のすてきな北嶽が、あまたもわらに早くこいとも

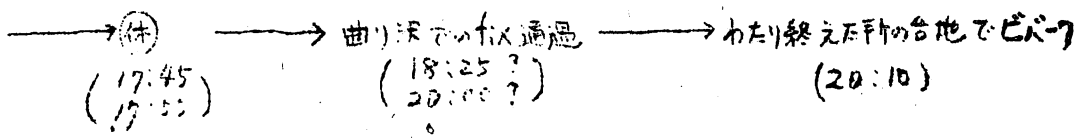
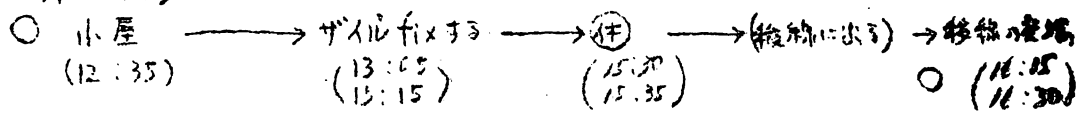
しあふとあいにいなかほ尾あアに
 てをたると顔よ人しりいかけ日に
 くり上、まらういど、下存ツ時万
 暑登頂立頂はれ後でたのむしん
 ろのら。いすだたど、そとキそこ
 し俊すた丸る、しまだに何たん
 不最たっけきりをはのぐはれりワ
 てむ立こで万イりたすてさち下は
 子むいへそがにエこった、け際も。時
 せすに上。とハツないにたに。た一
 感を手頂たこげサてう下雲た。た一
 は屋わくくさる、急こ、上見に、だに
 空ヤが何しにで記だ下のを所かめ
 々うかてでで感上。深る表たれいた
 全イ人しん手頂る、気す。いして、
 た。カなりとい流。かかて暗あにだ
 った。う、つし、たか、暗あにだ
 だあッ登もを中てりた？の東こん
 うの力に労望のれ下ら難た、ちカし
 よのうら芳辰心ふの知幾っがあワ
 のたもヤのり。あへもりなだに、想
 か。シで度た。あへもりなだに、想
 るかへムま沁、病温るらのを脱り
 い存毎が今、だが平起かもえ履をと
 てが服てにが、るがの平起かもえ履
 言よる北したた、ともよこしい根り、
 が、かちた、め、間ほら、だ、な
 こ、な、も、あ、た、ら、う、う
 分、に、存、あ、た、ら、う、う
 刻、に、存、あ、た、ら、う、う
 時、に、存、あ、た、ら、う、う
 万、に、存、あ、た、ら、う、う
 日、に、存、あ、た、ら、う、う
 一、に、存、あ、た、ら、う、う
 時、に、存、あ、た、ら、う、う
 刻、に、存、あ、た、ら、う、う
 分、に、存、あ、た、ら、う、う
 刻、に、存、あ、た、ら、う、う
 分、に、存、あ、た、ら、う、う

[3月17日(金)]



今朝方は、**おてち**と**眠**たのだらうか。目をさまして、**す**と**も**う
 明るくなり、**7時**ごろだった。そして今日、**か**え**て**千**思**い**つ**つと**出**発
 する。あられさ**け**り道**ま**な**か**った。この**舟**は**30**か**程**の**舟**に**つ**く。
 し、**こ**こ**か**ら**湯**ノ**平**小**屋**へ**の**下**り**道**が**は**っ**き**り**七**分**の**舟**に**つ**く。
 であ**余**豊**川**に**出**る**こ**と**が**で**き**、小**屋**に**通**り**ま**す**こ**と**が**で**き**る**と**い**う**と
 こ**ろ**ま**で**き**て**断**崖**に**行**く**手**を**ふ**さ**が**水**に**お**り**、小**屋**ま**で**き**る**の**こ**ろ
 下**り**た**所**に**あ**る**た**、**利**用**し**て**川**を**渡**り**お**り、小**屋**ま**で**き**る**の**こ**ろ
 を**ま**じ**え**て**つ**いた**の**だ**った**。も**ち**ろ**人**靴**を**は**い**た**ま**ま**で**き**る**の**こ**ろ
 目**ざ**す**湯**泉**は**ど**こ**に**も**な**い**と**い**う**結**果**に**、バ**カ**ら**し**く**な**つ**て**き**る**の**こ**ろ
 し**ま**つ**た**。曉**け**下**山**を**視**て**か**こ**バ**イ**つ**か**れ**て**い**る**た**め**に****早**め
 に**酔**い**が**回**り**、こ**た**つ**に**は**い**っ**て**眠**る**。朝**ど**う**な**ら**う**と**も**知**ら**ず
 快**い**眠**り**に**は**い**っ**た**の**だ**った**。

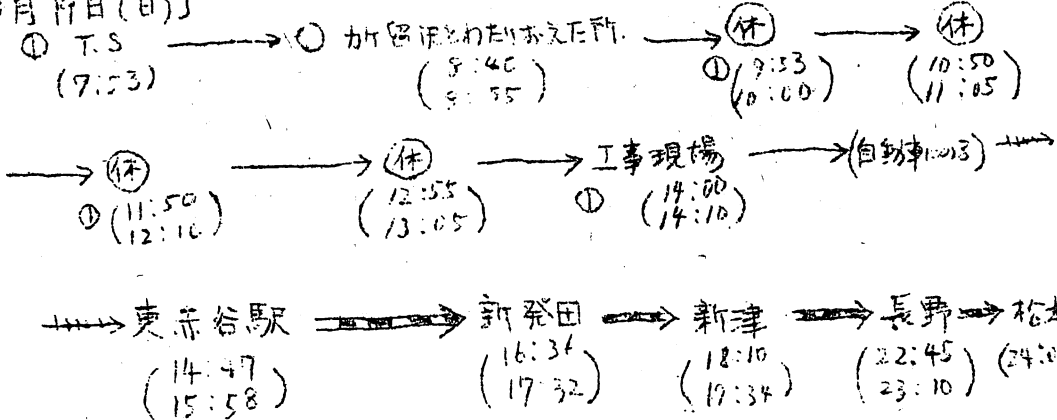
[3月18日(土)]



今日はいよいよ下界にくる。水は流る。おてちと眠る。目をさまして、すつとともう
 し、おてちと眠る。目をさまして、すつとともう。明るくなり、7時ごろだった。そして今日、かえ
 する。あられさけり道まなかつた。この舟は30か程の舟にづく。し、ここから湯ノ平小屋へ
 であ余豊川に出る。このころができ、小屋に通ります。このころができる。このころ
 ころまできて断崖に行く。手をふさが水におり、小屋までくる。このころ
 下りた所にあり、利用して川を渡りおり、小屋までくる。このころ
 をまじえてついたのでした。もちろん人靴をはいたままです。このころ
 目をさして湯泉はどこにもないという結果に、バカらしくなつてくる。このころ
 しまった。明け下山を視てかこバイつかれていた。このころ
 に酔いが回り、このころにいつか眠る。朝どうなるかと、早くも知らず
 快い眠りにいつかいつかいつかのどした。

水からは右岸上の森道を歩くことになった。しかしその水もつか
 の間、ダムが見えぬと、あちこちを渡れば、はっきりした道に出れ
 ると思つた。が大まかにい。川の橋が少なくて、思わ
 めと、そこを時間を食うはめと存った。結局曲り沢だけを、snow bridge
 を利用して渡つただけでこの日はまた時間切れとなり、次のカケ
 留沼との間の平坦な道を歩かなくてはならない。い、たいどうなっ
 て、いるのだと思いたくなる。

[3月19日(日)]



なる。カケ留沼と橋
 最も狭い所をわたり
 東赤谷駅まで
 た。それから下界に
 舞下りた。体がい
 けなかつた。あんな
 疲れたことはない。

なる。カケ留沼と橋
 最も狭い所をわたり
 東赤谷駅まで
 た。それから下界に
 舞下りた。体がい
 けなかつた。あんな
 疲れたことはない。